

人文科学研究科 比較文化専攻

専攻DP（教育目標）

DP 1 比較文化論、比較ジェンダー論、国際日本学のいずれかの学問領域において、緻密で体系的知識を習得し活用することができる。

DP 2 文献読解能力、批評能力、課題発見能力、情報収集能力、分析考察能力、論理的文章作成能力、口頭発表能力など、高度な研究能力を用いて自立した研究活動を行うことができる。

DP 3 専門とする分野から隣接諸学に視野を広げ、研究成果をグローバル社会の発展に活かすことができる。

DP 4 比較文化の視点に基づく 研究実績を持ち、国際社会において日本の学術の発展並びに 国際的協働に貢献することができる。

科目群	科目名	単位数	科目区分	アクティブ ラーニング型 授業	PBL型授業	高度なDX	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	科目概要	
研究 指導	比較文化研究指導	12	選択	○			◎	◎	◎	◎	「比較文化」の視点や考え方を取り入れ、また、研究テーマの領域だけでなくその周辺領域にも視野に入れて、博士論文にふさわしいレベルでの論文作成ができるようになることを目標とする。博士論文には研究のオリジナリティーが示されていることが必要となる。知識の蓄積と研究の独創性をいかに両立させるかを学んでいく。博士論文の計画立案から資料収集とその読解、執筆、完成までの指導を行う。質のよい論文作成のために必要な過程を踏みながら、個々の学生のニーズに応えるべく助言、指導を行う。	
	比較文化研究指導Ⅰ	2	選択	○			◎	○			「比較文化」の視点や考え方を取り入れ、また、研究テーマの領域だけでなくその周辺領域にも視野に入れて、博士論文にふさわしいレベルでの論文作成ができるようになることを目標とする。博士論文には研究のオリジナリティーが示されていることが必要となる。知識の蓄積と研究の独創性をいかに両立させるかを学んでいく。博士論文の計画立案から資料収集とその読解、執筆、完成までの指導を行う。質のよい論文作成のために必要な過程を踏みながら、個々の学生のニーズに応えるべく助言、指導を行う。	
	比較文化研究指導Ⅱ	2	選択	○			◎	○			「比較文化」の視点や考え方を取り入れ、また、研究テーマの領域だけでなくその周辺領域にも視野に入れて、博士論文にふさわしいレベルでの論文作成ができるようになることを目標とする。博士論文には研究のオリジナリティーが示されていることが必要となる。知識の蓄積と研究の独創性をいかに両立させるかを学んでいく。博士論文の計画立案から資料収集とその読解、執筆、完成までの指導を行う。質のよい論文作成のために必要な過程を踏みながら、個々の学生のニーズに応えるべく助言、指導を行う。	
	比較文化研究指導Ⅲ	2	選択	○			○	◎			「比較文化」の視点や考え方を取り入れ、また、研究テーマの領域だけでなくその周辺領域にも視野に入れて、博士論文にふさわしいレベルでの論文作成ができるようになることを目標とする。博士論文には研究のオリジナリティーが示されていることが必要となる。知識の蓄積と研究の独創性をいかに両立させるかを学んでいく。博士論文の計画立案から資料収集とその読解、執筆、完成までの指導を行う。質のよい論文作成のために必要な過程を踏みながら、個々の学生のニーズに応えるべく助言、指導を行う。	
	比較文化研究指導Ⅳ	2	選択	○			○	◎			「比較文化」の視点や考え方を取り入れ、また、研究テーマの領域だけでなくその周辺領域にも視野に入れて、博士論文にふさわしいレベルでの論文作成ができるようになることを目標とする。博士論文には研究のオリジナリティーが示されていることが必要となる。知識の蓄積と研究の独創性をいかに両立させるかを学んでいく。博士論文の計画立案から資料収集とその読解、執筆、完成までの指導を行う。質のよい論文作成のために必要な過程を踏みながら、個々の学生のニーズに応えるべく助言、指導を行う。	
	比較文化研究指導Ⅴ	2	選択	○					◎	○		「比較文化」の視点や考え方を取り入れ、また、研究テーマの領域だけでなくその周辺領域にも視野に入れて、博士論文にふさわしいレベルでの論文作成ができるようになることを目標とする。博士論文には研究のオリジナリティーが示されていることが必要となる。知識の蓄積と研究の独創性をいかに両立させるかを学んでいく。博士論文の計画立案から資料収集とその読解、執筆、完成までの指導を行う。質のよい論文作成のために必要な過程を踏みながら、個々の学生のニーズに応えるべく助言、指導を行う。
	比較文化研究指導Ⅵ	2	選択	○					○	◎		「比較文化」の視点や考え方を取り入れ、また、研究テーマの領域だけでなくその周辺領域にも視野に入れて、博士論文にふさわしいレベルでの論文作成ができるようになることを目標とする。博士論文には研究のオリジナリティーが示されていることが必要となる。知識の蓄積と研究の独創性をいかに両立させるかを学んでいく。博士論文の計画立案から資料収集とその読解、執筆、完成までの指導を行う。質のよい論文作成のために必要な過程を踏みながら、個々の学生のニーズに応えるべく助言、指導を行う。
	比較ジェンダー論研究指導	12	選択	○			◎	◎	◎	◎		この科目では、履修者の研究テーマに即した課題を設定して、比較ジェンダー論領域の博士論文の指導を行う。博士論文作成に関して、関連領域も含む先行研究のレビューを重点的に行い、論文の位置づけを明確に行うことを目標とする。さらに博士論文の分析枠組みの構築、理論の検討、仮説の設定と検証、考察などについて、論文執筆の進捗状況に合わせた指導を行う。履修者は、論文作成計画に基づいて、段階を踏みながら論文執筆を進める。
	比較ジェンダー論研究指導Ⅰ	2	選択	○			◎	○				この科目では、履修者の研究テーマに即した課題を設定して、比較ジェンダー論領域の博士論文の指導を行う。博士論文作成に関して、関連領域も含む先行研究のレビューを重点的に行い、論文の位置づけを明確に行うことを目標とする。さらに博士論文の分析枠組みの構築、理論の検討、仮説の設定と検証、考察などについて、論文執筆の進捗状況に合わせた指導を行う。履修者は、論文作成計画に基づいて、段階を踏みながら論文執筆を進める。
	比較ジェンダー論研究指導Ⅱ	2	選択	○			◎	○				この科目では、履修者の研究テーマに即した課題を設定して、比較ジェンダー論領域の博士論文の指導を行う。博士論文作成に関して、関連領域も含む先行研究のレビューを重点的に行い、論文の位置づけを明確に行うことを目標とする。さらに博士論文の分析枠組みの構築、理論の検討、仮説の設定と検証、考察などについて、論文執筆の進捗状況に合わせた指導を行う。履修者は、論文作成計画に基づいて、段階を踏みながら論文執筆を進める。
	比較ジェンダー論研究指導Ⅲ	2	選択	○			○	◎				この科目では、履修者の研究テーマに即した課題を設定して、比較ジェンダー論領域の博士論文の指導を行う。博士論文作成に関して、関連領域も含む先行研究のレビューを重点的に行い、論文の位置づけを明確に行うことを目標とする。さらに博士論文の分析枠組みの構築、理論の検討、仮説の設定と検証、考察などについて、論文執筆の進捗状況に合わせた指導を行う。履修者は、論文作成計画に基づいて、段階を踏みながら論文執筆を進める。
	比較ジェンダー論研究指導Ⅳ	2	選択	○			○	◎				この科目では、履修者の研究テーマに即した課題を設定して、比較ジェンダー論領域の博士論文の指導を行う。博士論文作成に関して、関連領域も含む先行研究のレビューを重点的に行い、論文の位置づけを明確に行うことを目標とする。さらに博士論文の分析枠組みの構築、理論の検討、仮説の設定と検証、考察などについて、論文執筆の進捗状況に合わせた指導を行う。履修者は、論文作成計画に基づいて、段階を踏みながら論文執筆を進める。
	比較ジェンダー論研究指導Ⅴ	2	選択	○					◎	○		この科目では、履修者の研究テーマに即した課題を設定して、比較ジェンダー論領域の博士論文の指導を行う。博士論文作成に関して、関連領域も含む先行研究のレビューを重点的に行い、論文の位置づけを明確に行うことを目標とする。さらに博士論文の分析枠組みの構築、理論の検討、仮説の設定と検証、考察などについて、論文執筆の進捗状況に合わせた指導を行う。履修者は、論文作成計画に基づいて、段階を踏みながら論文執筆を進める。
	比較ジェンダー論研究指導Ⅵ	2	選択	○					○	◎		この科目では、履修者の研究テーマに即した課題を設定して、比較ジェンダー論領域の博士論文の指導を行う。博士論文作成に関して、関連領域も含む先行研究のレビューを重点的に行い、論文の位置づけを明確に行うことを目標とする。さらに博士論文の分析枠組みの構築、理論の検討、仮説の設定と検証、考察などについて、論文執筆の進捗状況に合わせた指導を行う。履修者は、論文作成計画に基づいて、段階を踏みながら論文執筆を進める。
	国際日本学研究指導	12	選択	○			◎	◎	◎	◎		日本の文学や歴史、言語、コミュニケーション、言語教育を専攻する学生の、博士論文作成に関する一連の指導を行う。博士論文にふさわしい独自性を持った論文を完成させるためには、論文テーマの設定と、研究の枠組みと先行研究の検討、資料の収集と分析、考察が必要である。履修者の個々のニーズに合わせてながら、履修者が積極的に取り組んでいけるように助言、指導を行う。
国際日本学研究指導Ⅰ	2	選択	○			◎	○				日本の文学や歴史、言語、コミュニケーション、言語教育を専攻する学生の、博士論文作成に関する一連の指導を行う。博士論文にふさわしい独自性を持った論文を完成させるためには、論文テーマの設定と、研究の枠組みと先行研究の検討、資料の収集と分析、考察が必要である。履修者の個々のニーズに合わせてながら、履修者が積極的に取り組んでいけるように助言、指導を行う。	

人文科学研究科 比較文化専攻

専攻DP（教育目標）

DP 1 比較文化論、比較ジェンダー論、国際日本学のいずれかの学問領域において、緻密で体系的知識を習得し活用することができる。

DP 2 文献読解能力、批評能力、課題発見能力、情報収集能力、分析考察能力、論理的文章作成能力、口頭発表能力など、高度な研究能力を用いて自立した研究活動を行うことができる。

DP 3 専門とする分野から隣接諸学に視野を広げ、研究成果をグローバル社会の発展に活かすことができる。

DP 4 比較文化の視点に基づく 研究実績を持ち、国際社会において日本の学術の発展並びに 国際的協働に貢献することができる。

科目群	科目名	単位数	科目区分	アクティブ ラーニング型 授業	PBL型授業	高度なDX	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	科目概要
	国際日本学研究指導Ⅱ	2	選択	○			◎	○			日本の文学や歴史、言語、コミュニケーション、言語教育を専攻する学生の、博士論文作成に関する一連の指導を行う。博士論文にふさわしい独自性を持った論文を完成させるためには、論文テーマの設定と、研究の枠組みと先行研究の検討、資料の収集と分析、考察が必要である。履修者の個々のニーズに合わせてながら、履修者が積極的に取り組んでいけるように助言、指導を行う。
	国際日本学研究指導Ⅲ	2	選択	○			○	◎			日本の文学や歴史、言語、コミュニケーション、言語教育を専攻する学生の、博士論文作成に関する一連の指導を行う。博士論文にふさわしい独自性を持った論文を完成させるためには、論文テーマの設定と、研究の枠組みと先行研究の検討、資料の収集と分析、考察が必要である。履修者の個々のニーズに合わせてながら、履修者が積極的に取り組んでいけるように助言、指導を行う。
	国際日本学研究指導Ⅳ	2	選択	○			○	◎			日本の文学や歴史、言語、コミュニケーション、言語教育を専攻する学生の、博士論文作成に関する一連の指導を行う。博士論文にふさわしい独自性を持った論文を完成させるためには、論文テーマの設定と、研究の枠組みと先行研究の検討、資料の収集と分析、考察が必要である。履修者の個々のニーズに合わせてながら、履修者が積極的に取り組んでいけるように助言、指導を行う。
	国際日本学研究指導Ⅴ	2	選択	○					◎	○	日本の文学や歴史、言語、コミュニケーション、言語教育を専攻する学生の、博士論文作成に関する一連の指導を行う。博士論文にふさわしい独自性を持った論文を完成させるためには、論文テーマの設定と、研究の枠組みと先行研究の検討、資料の収集と分析、考察が必要である。履修者の個々のニーズに合わせてながら、履修者が積極的に取り組んでいけるように助言、指導を行う。
	国際日本学研究指導Ⅵ	2	選択	○					○	◎	日本の文学や歴史、言語、コミュニケーション、言語教育を専攻する学生の、博士論文作成に関する一連の指導を行う。博士論文にふさわしい独自性を持った論文を完成させるためには、論文テーマの設定と、研究の枠組みと先行研究の検討、資料の収集と分析、考察が必要である。履修者の個々のニーズに合わせてながら、履修者が積極的に取り組んでいけるように助言、指導を行う。
	共通基 盤科目	研究法概説(研究資源探索・論文執筆)	2	選択	○						◎
研究法概説(情報学・統計学)		2	選択							◎	博士課程における調査研究を行うための研究調査法を身につける。研究とは、明確な問題意識をもち、設定されている課題を解決するために計画的・系統的に情報・データ・事実を収集し、適切な認知的枠組み（理論・仮説・分析フレームワーク）のもとに分析・解釈し論文にまとめ発表することである。質的研究の方法として、面接法・観察法・質問紙調査法を学ぶ。量的研究の方法として、データの視覚化・探索的データ解析、2群比較（検定、ウィルコクソンの順位和検定）、多群比較（分散分析、クラスカル・ウォリスの順位和検定）のほか、相関分析、回帰分析、因子分析、共分散構造分析、統計的テキストマイニングを学ぶ。
研究 特 論	日本文学特論A	2	選択				◎		○		社会のグローバル化のなかで、日本文学研究についても変革の試みの一つとして、外に開こうとする動きがある。日本文学、特に古典文学に対する中国からの直接的間接的影響については、早くから認識され研究もされてきた。こうした伝統的な比較文学研究とは異なり、近年では、地域的枠組みの変化を背景に、西欧に対する東アジア、特に漢字文化圏を視野に、種々の方面から文化的共通点や相違点を探索し、新たな文学史の構築が試みられている。そこで近年発表された論文や研究書からいくつかの話題をとりあげて、東アジアにおける日本文学（主に古典）の現在を知り、各院生の研究や将来の教育の糧となるようにしていきたい。
	日本文学特論B	2	選択				◎		○		日本文学の論じられるトピックを、現代の研究の潮流を視野に入れながら、専門的に学ぶ。近年発表された論文や研究書、あるいは研究史上重要な文献をもとにトピックを選択し、日本文学に対する知見を深め、各院生の研究や将来の教育に資するものとする。
	日本語学特論A	2	選択				◎		○		専門的な文献や資料の読解を通して、日本語研究の重要な分野・領域について考えを深める。この授業では、縦軸として日本語学の研究分野である「日本語史」から日本語がどのように変化したのかを学ぶ。主に品詞、表現、文体、敬語などの変遷についての研究論文を読み、日本語が過去から現在に至るまでどのような変遷を経てきたかという史的な視点を広げるだけでなく、現在生じている様々な変化を多角的に考える力を養う。横軸としては、日中両言語の相違点や中国人学習者の初級から上級レベルの文法、語彙、（共起）表現、説明・描写の視点などに関する習得上の問題を分析・考察し、そこで得た知見や視点を生かしながら、教育実践の場で役立つ具体的な活動案を案出する力を養成する。
	日本語学特論B	2	選択				◎		○		日本語研究で重要な文献やテーマ、近年の研究成果等を検討する。現代日本語は、文法や意味、談話などさまざまな分野で研究が進められている。これらの分野から、重要な文献や先端的な文献を、事例とともに検討し、履修者の日本語研究の展望を得る一環とする。その中に、日本語の語の意味研究があり、長年にわたる研究成果とともに、近年ではコーパスを用いた研究や認知言語学的な視点からの意味分析も活発である。重要な先行研究とともに近年の多義語や類義語の分析方法とその分析事例を考察する。
	日本語教育学特論A	2	選択	○			◎		○		日本語教育研究の主要なテーマから、研究史的に重要な文献や近年の先端的な研究成果などを取り上げる。履修者は、それに基づいて日本語教育研究について展望を得て、自らの研究の進展に生かすようにする。そして、日本語教育に携わる履修者は、その知識を教育の現場にどのように導入するかも考えていく。
	日本語教育学特論B	2	選択				◎		○		日本語教育研究の主要なテーマから、研究史的に重要な文献や近年の先端的な研究成果などを取り上げる。履修者は、それに基づいて日本語教育研究について展望を得て、自らの研究の進展に生かすようにする。そして、日本語教育に携わる履修者は、その知識を教育の現場にどのように導入するかも考えていく。

人文科学研究科 比較文化専攻

専攻DP（教育目標）

DP 1 比較文化論、比較ジェンダー論、国際日本学のいずれかの学問領域において、緻密で体系的知識を習得し活用することができる。

DP 2 文献読解能力、批評能力、課題発見能力、情報収集能力、分析考察能力、論理的文章作成能力、口頭発表能力など、高度な研究能力を用いて自立した研究活動を行うことができる。

DP 3 専門とする分野から隣接諸学に視野を広げ、研究成果をグローバル社会の発展に活かすことができる。

DP 4 比較文化の視点に基づく 研究実績を持ち、国際社会において日本の学術の発展並びに 国際的協働に貢献することができる。

科目群	科目名	単位数	科目区分	アクティブ ラーニング型 授業	PBL型授業	高度なDX	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	科目概要
	地域文化特論A	2	選択				◎		○		東アジア世界全体を視野に入れて、「比較文化」及び「物質文化」という切り口から、資料に即して具体的に考究することを目標とする。そのために必要な幅広く体系的な知識の修得、また考古学的な視点の修得も併せておこなう。特に、グローバルな視点から、大陸、半島、列島間の文化的な影響関係を、実体に即して正しく認識することを目指し、必要に応じて各自の研究内容に反映できるようにする。いわゆる東アジア地域を対象とし、特に物質文化の視点に立って、無文字社会の段階から歴史時代まで、幅広く地域特性を明らかにする。主に考古学的手法に基づいて、具体的な分析や比較検討をおこない、比較文化の視点を豊かにすると共に、各自の研究テーマの設定や掘り下げに活かしていく。
	地域文化特論B	2	選択				◎		○		比較文化に関連する専門書を輪読・精読しながら、比較文化の視点から地域文化について理解を深め、文化分析の能力を培う。具体的には、国際関係論に関連して、比較文化・地域文化研究に資するものを輪読・精読文献とする。短期間で多数の文献を読み込みながら、履修者はそれぞれの研究関心に応じて、関連する研究発表とタムペーパー・研究論文の提出をし、研究者として独自の視点の確立を目指す。
	ジェンダー特論A	2	選択				◎		○		本授業の達成目標は、博士論文作成に必要とされるジェンダー研究の専門知識を習得することを通じ、質の高い論文作成に向けた研究を行えるようになることを目指すことである。履修者は、博士論文テーマに関連したジェンダー研究の専門知識について、文献を購読し、より質の高い研究成果を発表できるようにする。研究内容についてのレジメを作成し、授業において発表し討議を行う。
	ジェンダー特論B	2	選択				◎		○		本授業の達成目標は、博士論文作成に必要とされるジェンダー研究の専門知識を習得することを通じ、質の高い論文作成に向けた研究を行えるようになることを目指すことである。受講生は、博士論文テーマに関連したジェンダー研究の専門知識について、文献を購読し、より質の高い研究成果を発表できるようにする。研究内容についてのレジメを作成し、授業において発表し討議を行う。
実践研 究・研修	上級日本語教授法Ⅰ	2	選択						○	◎	日本語教育を専攻する者を対象に、日本語教授法の理論的枠組みや実践研究をさらに学び、履修者それぞれの研究の発展に役立たせることを目指す。
	上級日本語教授法Ⅱ	2	選択						○	◎	日本語教育を専攻する者を対象に、日本語教授法の理論的枠組みや実践研究をさらに学び、履修者それぞれの研究の発展に役立たせることを目指す。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項